

2025年日本国際博覧会 会場整備に係るプロジェクトマネジメント支援業務

基本情報

プロジェクトの基本情報	●プロジェクト名称 【2025年日本国際博覧会 会場整備に係るプロジェクトマネジメント支援業務】 ●所在地：大阪府大阪市此花区 ●種別1：新築 ●種別2：文化施設
CM業務委託者に関する情報	●CM業務委託者名：公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 ●CM業務委託者の所在地：大阪府大阪市住之江区 ●種別：その他（公益社団法人）
応募者に関する情報	●応募者名：山下PMC/阪急コンストラクション・マネジメント ●所在地：東京都中央区/大阪府大阪市北区 ●種別：CM専門会社
応募の対象となるCM業務	基本計画段階、基本設計段階、実施設計段階、発注業務、工事施工
CMRの選定方法	プロポーザル
CM業務内容	●業務契約期間：2020年6月～2025年3月 ●全体マネジメント：事業構想・基本計画、基本設計、実施設計、工事施工 ●調達マネジメント：事業構想・基本計画、基本設計、実施設計、工事施工 ●品質マネジメント：事業構想・基本計画、基本設計、実施設計、工事施工 ●コスト・マネジメント：事業構想・基本計画 ●運営・管理マネジメント：事業構想・基本計画、基本設計、実施設計、工事施工 ●環境マネジメント：事業構想・基本計画、基本設計、実施設計、工事施工 ●リスクマネジメント：事業構想・基本計画、基本設計、実施設計、工事施工
設計施工者の選定	●発注方式：設計施工分離/設計施工一括
CM業務概要	①CMRとして【全体工程の策定・進捗管理】【公平・妥当な発注方針】【調達可能性と適材適所の選定枠組】【工事組織とルール策定・運用】という目標を掲げ、遅延のない確実なプロジェクト推進を支援した。 ②夢洲では万博会場整備に加え、IR・地下鉄延伸等が同時進行し、会場内でも国内外の多数の参加者による工事が並行実施された。CMRには関係者間の連携・調整、大型イベント特有の課題・リスク対応など、遅延なく会場整備を推進する支援が求められた。 ③CMRが情報連携・推進のHubとなり、綿密なコミュニケーションで業務を遂行し、9つの戦略を立案・実行した結果、大屋根リング等協会施設は予定通り竣工し、多数のパビリオンが開幕を迎え、高評価のもと10月13日に無事閉幕した。

CMRの採用理由 【遅延のないプロジェクトマネジメント】

万博は遅延不可の国家プロジェクトであり、夢洲では埋立・IR・地下鉄工事が同時進行し多くの制限が課された。会場内でも協会施設・基盤に加え多数の参加者工事が実施され、複雑な条件下での関係者連携や調整、工程管理が不可欠となり、協会は会場整備の知見を持つCMRへ支援を要請した。

CMRの提案 【9つの戦略を立案しプロジェクトの指標を定め推進】

2020年度に大型イベントの実績を活かし遅延なきマネジメントのための9つの戦略（発注・調達・仮設建築活用・設計・変更管理・工事管理・品質管理・人員・プログラム管理）を立案。複数施設の進捗管理、工事費・設計変更管理、施工計画・組織化等を実施し、開幕まで遅延なく確実に会場整備を完了する基盤を構築した。

プロジェクト目標・課題解決手法

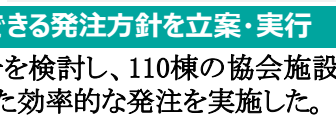
2,820万人が集う会場整備の確実な実行

①全参加者を統合した会場全体スケジュール策定と進捗管理

整備・運営間の進捗ギャップなど、イベント特有のリスクを可視化しスケジュールの進捗管理を独自に有する知見を活かして2本柱の体制で実施した。

●業務立案・推進チームとスーパーバイザーチームの2本柱体制で透明性の高い業務推進を実施 ●整備（設計者・施工者）側と運営側のスケジュールを各々検討 ●イベント特有の「整備側と運営側の条件確度・進捗のギャップ」を把握 ●整備と運営側スケジュールを一元管理 ●各スケジュールを見える化し、関係者への情報展開とリスク対策を実施

■会場整備側の条件確度・進捗と運営側の条件確度・進捗のギャップ



●施設・インフラの特性や要求事項を整理 ●設計施工分離、設計施工一括、BOO等の方式から適したプロジェクト実施方式を提案 ●リース建築適用を含め設計の効率化や設計品質の均一化 ●設計・建設・解体工事に対する基本協定の導入 ●大屋根リングの木材等を含めた先行発注やリース契約の検討

■施設・インフラ毎に適したプロジェクト実施方式を検討

●建設工事全般にわたり統一した基準としてのガイドラインを作成 ●協会・統括施工者・各施工者の役割と責任を明確化しガイドラインを基盤とした具体的ルールの整備 ●施工者間調整と安全・円滑な現場運営を確実にするため、統括施工者を主体とした組織を立案し運営支援 ●施設・基盤・ランドスケープなど工事工程を一元化・可視化とリスク管理 ●作業環境の改善や工事動線・工程を最適化

■複数の工区割の比較検討を実施

●安全・円滑な現場運営を行うため会場全体連絡調整協議体を組成

■安全・円滑な現場運営を行うため会場全体連絡調整協議体を組成

●建設工事全般にわたり統一した基準としてのガイドラインを作成 ●協会・統括施工者・各施工者の役割と責任を明確化しガイドラインを基盤とした具体的ルールの整備 ●施工者間調整と安全・円滑な現場運営を確実にするため、統括施工者を主体とした組織を立案し運営支援 ●施設・基盤・ランドスケープなど工事工程を一元化・可視化とリスク管理 ●作業環境の改善や工事動線・工程を最適化

■安全・円滑な現場運営を行うため会場全体連絡調整協議体を組成

●建設工事全般にわたり統一した基準としてのガイドラインを作成 ●協会・統括施工者・各施工者の役割と責任を明確化しガイドラインを基盤とした具体的ルールの整備 ●施工者間調整と安全・円滑な現場運営を確実にするため、統括施工者を主体とした組織を立案し運営支援 ●施設・基盤・ランドスケープなど工事工程を一元化・可視化とリスク管理 ●作業環境の改善や工事動線・工程を最適化

■安全・円滑な現場運営を行うため会場全体連絡調整協議体を組成

●建設工事全般にわたり統一した基準としてのガイドラインを作成 ●協会・統括施工者・各施工者の役割と責任を明確化しガイドラインを基盤とした具体的ルールの整備 ●施工者間調整と安全・円滑な現場運営を確実にするため、統括施工者を主体とした組織を立案し運営支援 ●施設・基盤・ランドスケープなど工事工程を一元化・可視化とリスク管理 ●作業環境の改善や工事動線・工程を最適化

■安全・円滑な現場運営を行うため会場全体連絡調整協議体を組成

●建設工事全般にわたり統一した基準としてのガイドラインを作成 ●協会・統括施工者・各施工者の役割と責任を明確化しガイドラインを基盤とした具体的ルールの整備 ●施工者間調整と安全・円滑な現場運営を確実にするため、統括施工者を主体とした組織を立案し運営支援 ●施設・基盤・ランドスケープなど工事工程を一元化・可視化とリスク管理 ●作業環境の改善や工事動線・工程を最適化

■安全・円滑な現場運営を行うため会場全体連絡調整協議体を組成

●建設工事全般にわたり統一した基準としてのガイドラインを作成 ●協会・統括施工者・各施工者の役割と責任を明確化しガイドラインを基盤とした具体的ルールの整備 ●施工者間調整と安全・円滑な現場運営を確実にするため、統括施工者を主体とした組織を立案し運営支援 ●施設・基盤・ランドスケープなど工事工程を一元化・可視化とリスク管理 ●作業環境の改善や工事動線・工程を最適化

■安全・円滑な現場運営を行うため会場全体連絡調整協議体を組成

●建設工事全般にわたり統一した基準としてのガイドラインを作成 ●協会・統括施工者・各施工者の役割と責任を明確化しガイドラインを基盤とした具体的ルールの整備 ●施工者間調整と安全・円滑な現場運営を確実にするため、統括施工者を主体とした組織を立案し運営支援 ●施設・基盤・ランドスケープなど工事工程を一元化・可視化とリスク管理 ●作業環境の改善や工事動線・工程を最適化

■安全・円滑な現場運営を行うため会場全体連絡調整協議体を組成

●建設工事全般にわたり統一した基準としてのガイドラインを作成 ●協会・統括施工者・各施工者の役割と責任を明確化しガイドラインを基盤とした具体的ルールの整備 ●施工者間調整と安全・円滑な現場運営を確実にため

■安全・円滑な現場運営を行うため会場全体連絡調整協議体を組成

●建設工事全般にわたり統一した基準としてのガイドラインを作成 ●協会・統括施工者・各施工者の役割と責任を明確化しガイドラインを基盤とした具体的ルールの整備 ●施工者間調整と安全・円滑な現場運営を確実にため

■安全・円滑な現場運営を行うため会場全体連絡調整協議体を組成

●建設工事全般にわたり統一した基準としてのガイドラインを作成 ●協会・統括施工者・各施工者の役割と責任を明確化しガイドラインを基盤とした具体的ルールの整備 ●施工者間調整と安全・円滑な現場運営を確実にため

プロジェクト概要

世界中から人・モノが集まる国家プロジェクト

万博は、コロナ禍を乗り越えた先の新しい時代に向け、日本が世界に発信する国家プロジェクトである。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、自らと他者のいのちを見つめ直し、自然界の多様な生命との共生を考え、世界が持続可能な社会を築くための価値観を共有する場として、大阪・夢洲にて開催された。

テーマ
いのち輝く未来社会のデザイン

【概要】
サブテーマ: Saving Lives
Empowering Lives
Connecting Lives
コンセプト: People's Living Lab
場所: 大阪府大阪市此花区(夢洲)
期間: 2025/4/13～10/13 (184日間)
会場面積: 約155ha(ヘクタール)
出展者数: 国・地域 158
国際機関 7
国内民間企業・団体 13
施設概要: 万博会場内全施設 195棟
※内、協会施設 110棟
事業費: 万博会場建設費2,350億円

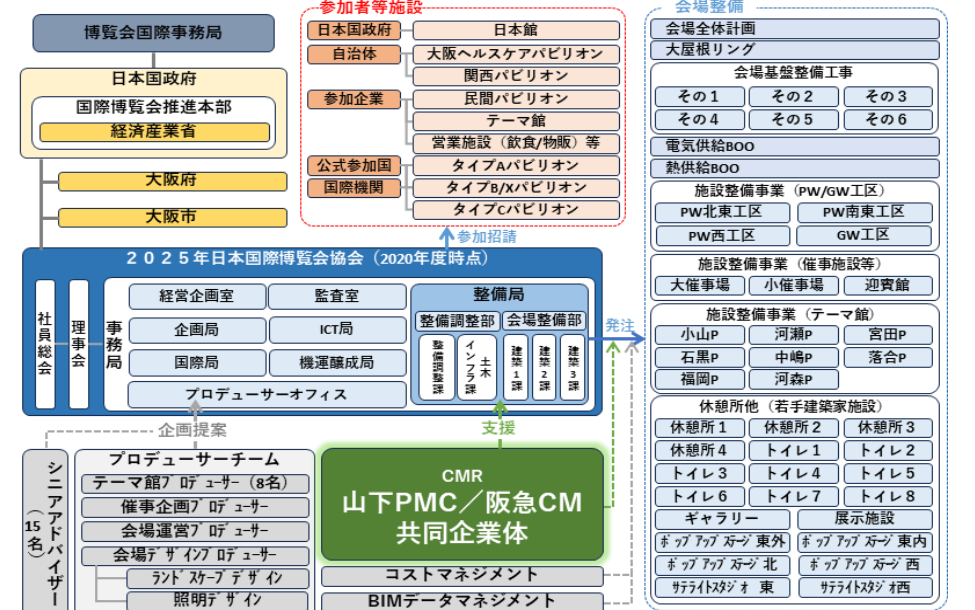
提供: 公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会

イベントプロジェクト事業特有の課題への挑戦

協会施設110棟、参加者等施設95棟の計195棟を整備するプロジェクトで、開幕日厳守、高い説明責任と妥当性確保、多数の関係者による意思決定の難しさなど、万博特有の課題解決に向け新たなマネジメント手法の開拓が求められた。

イベントプロジェクト事業特有の課題への挑戦

協会、設計者、施工者、各プロデューサー、参加国、企業、日本国政府、大阪府市など、国内外の多様な主体者が連携して進める極めて複雑なプロジェクトのため、CMRは設計・工事のプロジェクトマネジメントに加え、基盤・施設の条件整理や戦略立案を支援し、関係者間の調整と意思決定の円滑化を協会と一体で実現した。



目標達成度

2025年4月までに会場整備を完成し無事に6か月間の会期を終了

未整備の基盤インフラから195棟の施設整備を実現し、大屋根リングを含む協会施設は予定通り竣工し開幕した。リング完成後は機運も高まり、多くの来場者が会場に集い日本万博史上2番目の規模として10月13日に無事閉幕した。

公平性と調達可能性の高い仕組み作りで大手から地元企業と幅広い企業が参画

若手を含む多くの設計事務所や建設会社が参画し技術力を高め合った。大屋根リングは大手3社が共同で各社独自性を活かし設計。大手から地元まで幅広く協力し、個性的な施設や世界最大の木造建築など会場整備に大きな役割を果たした。

会場整備における組織化と円滑な工事の達成

CMRが連絡調整協議体の骨子を検討し、博覧会協会と共に運営を支援した。ガイドラインや施工ルールを協会・統括施工者・CMRが作成し、協議体を通じて周知徹底することで事故のリスクを低減、多くの施工者が協力し円滑に工事を完遂した。

CMRが受けた評価

CMRは会場整備を担当した整備局(現:工務局)のパートナーとして、万博の成功に向けて開幕まで並走した。博覧会協会の担当者の多くは出向者のため、数年で入れ替わる状況ではあったが、CMRがプロジェクトマネジメント支援業務を通じて、情報連携やプロジェクト推進のHubとして綿密なコミュニケーションを武器に業務を遂行したことで、発注者より「プロジェクトマネジメント支援があったからこそ無事に開幕が実現できた」という評価のお言葉をいただくことができた。

最もアピールしたいこと

CMRはこれまでの知見を活かし発展的な提案と協会のプロジェクト推進を支援することで、万博が遅延なく開幕することに貢献した。多数の関係者が参画するイベント事業において、CMRの知見がレガシーとして引き継がれ、今後の国内イベント事業成功に極めて有効な手段の1つだと確信している。